讀賣新聞

2005年(平成17年)8月17日 水曜日

「Uターン」ピーク直撃

宮城地震 線路で、駅で……グッタリ

最大震度6弱の揺れが、お盆休みを終えた帰省や行楽客の足を直撃した。16日正午前、宮城沖を震源地として東日本の広い範囲を襲った大地震。「車内は蒸し風呂のようだった」「あしたは仕事なのに……」。東北新幹線は、上り下り各1本が送電が止まって冷房が使えなくなったため、乗客を徒歩で最寄り駅に向かわせたほか、計4本が6～8時間、線路上に立ち往生して約3200人が閉じ込められた。天井の崩落や壁の倒壊などで負傷した人も各地で相次いだ。〈本文記事1面〉

地震で止まった東北新幹線「やまびこ52号」から降り、線路脇を歩いて仙台駅に到着した乗客（16日午後3時47分）＝岩波友紀撮影

東北（山形・秋田）新幹線はこの日、お盆のUターンラッシュのピーク。乗車率が108％に上った盛岡発上り「やまびこ52号」は、仙台駅から約2キロ手前で立ち往生した。約880人を乗せた車内は、架線が切れて停電したため冷房もストップ。自動販売機も止まり、洗面所の水も使えなくなった。

結局、乗客を線路上におろし、高架上を徒歩で仙台駅に向かわせる措置を取ったのは3時間近くたってから。バリ島での孫の結婚式に出席するため成田に向かう途中だった岩手県沢内村・深沢ノリさん（75）は、車内は蒸し風呂のよう。もう少し長くいたら倒れていたかも」。眠り込んだ長女（3）を抱きかかえながら、30分近くも線路を歩いた横浜市の会社員高橋悟さん（33）は「あすから仕事。何とか今日中に帰らないと」とげっそりとした表情だった。

トンネルに4時間半

一方、約800人が乗った八戸・秋田発の上り「はやて・こまち10号」（乗車率98％）は、福島―郡山駅間のトンネル内に止まった。動き出したのは4時間半あまりたった午後4時22分だった。宮城県石巻市から静岡県浜松市の自宅に帰る途中の大庭允さん（64）は「トンネル内は圧迫感があり、頭ががんがんした」。

東北新幹線は、これらも含め地震発生時に走っていた14本がストップし、やまびこ52号のほか、下り の1本も送電がストップしたため、乗客約170人を線路上におろした。また線路の点検作業が手間取るなどして、4本の列車は約3200人を6時間以上も乗せたまま、線路上に立ち往生し、移動が最も遅かった「はやて・こまち272号」（乗車率91％）の乗客約1050人は8時間にわたって車内に閉じ込められた。

JR仙台駅構内で新幹線の運転再開を待つ人たち（16日午後4時34分）

JR東日本によると、郡山―いわて沼宮内間の約270キロで、異常の有無を歩いて確認した保安要員らは約100人。同社は「点検区間が、あまりに長かったことで、復旧に時間がかかってしまった」と説明している。

東京駅ホームに列車ホテル用意

17日午前1時過ぎ、東北新幹線の「はやて・こまち272号」が東京駅の21番ホームにたどり着いた。疲れ切った表情の乗客たち。二戸駅から乗った津市の無職、長瀬博好さん（65）は、「仙台駅でパンなどが配られたので、ひもじい思いはしなかった。自宅に帰る方法を探さなければ」。

神奈川県座間市の塾講師、船渡敏伸さん（29）は仙台駅で7時間待った。「どうしても今日中に帰りたかった。本当なら今ごろ家で寝ているはずだが……」と土産の袋を手に力無く話した。

JR東日本は、乗客が宿泊できるよう、東京駅のホームに特急用車両を使った“列車ホテル”を用意した。

BRBメディカルサロン
www.brb.co.jp

エレベーター閉じ込め 都内では8件

今回の地震で、東北地方や関東地方のエレベーターのうち、業界大手3社が管理するものだけで、計約1万台が緊急停止した。

三菱電機ビルテクノサービスでは4100台、日立ビルシステムでは3400台、東芝エレベータでは2500台がそれぞれ止まった。東北地方では、全体の約4割にあたる4100台が止まったという。

国土交通省が、日本エレベータ協会からの報告で把握した「閉じ込め」事案は、16日午後3時時点の集計で、東北6県で15件、東京都内では8件だった。